

○実施のイメージ(主たるところのみ あいさつなどは抜いている)

例1 ワークショップ参加者…児童生徒 45～50分

学習活動	指導上の留意点
1 ワークショップのねらいを教師から聞く。 (5分)	○ 事前指導として、震災について覚えていることや知っていることを児童生徒に問いかけ、授業への意欲づけとする。
2 語り部の話を聞く。 (40分)	○ 語り部の話を聞いているうちに、震災当時のことを思い出したり、聞いていることが辛くなったりした児童生徒はそっと抜けられるように配慮する。
3 感想や御礼を述べる。(5分)	○ 事後指導として感想を書かせ、十七字の作品づくりの足がかりとする。

例2 ワークショップ参加者…児童生徒・保護者 90～100分(2コマを想定)

学習活動	指導上の留意点
1 ワークショップのねらいを教師から聞く。 (5分)	○ 事前指導として、震災について覚えていることや知っていることを児童生徒に問いかけ、授業への意欲づけとする。
2 語り部の話を聞く。 (40分)	○ 震災当時のことを思い出したり、聞いていることが辛くなったりした児童生徒は、そっと抜けられるように配慮する。
3 語り部の方へ質問や感想を伝える。 (10分)	○ 児童生徒や保護者が自由に発言できるようにし、必要に応じて声かけをする。
4 十七字の作品作りについて、教師の説明を聞き、親子で話し合いながら、十七字の作品を作る。 (30分)	○ 十七字の作品作りの内容は、共通体験や互いの思いや願いが作品に込められていることが大切であることを伝える。 (事業担当から説明させていただくことも可能です。)
5 作品の交流をしたり、ワークショップアンケートを実施したりする。 (5分)	

例3 ワークショップ参加者…高校生(リモートで他校とつなぐ) 100分(50分×2コマ)

学習活動	指導上の留意点
<p>1 リモート接続した各校の代表生徒が、学校の簡単な紹介をする。 進行役がワークショップのねらいを説明する。(5分)</p>	
<p>2 語り部の話を聞く。 (50分)</p>	<p>○ 語り部の話を聞いているうちに、震災当時のことを思い出したり、聞いていることが辛くなったりした生徒はそっと抜けられるように配慮する。</p>
<p>3 語り部の方へ質問・意見交換。 (10分)</p>	
<p>4 語り部の話を個人で振り返る。(5分)</p>	<p>○ ワークシートを準備し、十七字の作品を作るときの足がかりとする。</p>
<p>5 グループで感想を話し合う。(20分)</p>	<p>○ Google や Zoom 等のブレイクアウトルームを活用し、両校の生徒が小グループで交流する。</p>
<p>6 感想を全体で共有する。(10分)</p>	<p>○ 事後指導として、語り部の方の話を聞き、これからの生き方にどう生かしていくかをまとめる。</p>